

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2						
年組	1年1組	教科書(発行所)	新 現代の国語(三省堂)								
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目		
			知識・技能			思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む			
4	1 わかりあうために ・伝え合い ・届く言葉、届かない言葉	・情報を読み取り、理解したことや解釈したことを発表する。 ・心に届く言葉とはどのようなものかについて考える。	○	○		○				学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
	5 2 確かな情報を伝えるために ・情報は創られる ・ひとまず、信じない ・情報を編集し、的確に発表する	・身近な体験を通して、確かな情報を伝えるために必要なことは何かを考える。 ・話す相手や場を意識しながら、集めた情報を編集し、スピーチの原稿をつくる。	○	○		○					
	6 3 情報を生かすために ・減災学をつくる	・筆者の考えるハザードマップの問題点を整理する。	○	○				○	○		
7										授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。	
8・9	4 よりよい読み手になるために ・読むことのレッスン ・水の東西	・比較対照して説明することの特徴と留意すべき点を知る。 ・東西文化の違いについて興味を喚起し、自らの考えを深めたり、興味関心を喚起したりする。	○	○					○	学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。	
9											
10	5 場に応じて伝えるために ・読み比べ ・構成や展開を意識して発表するープレゼンテーション	・テーマに関心をもって文章を読み比べ、自分の意見をもつ。 ・聞き手を意識したプレゼンテーションの方法を学ぶ。	○	○		○			○		
11	6 説得力を高めるために ・宝探してみたいに本の世界へ入っていきます	・読み手の理解が得られるような表現の仕方、説明の仕方の工夫を理解する。	○	○					○	評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
12											
12	・情報を整理して推薦するーブックトーク原稿	・さまざまな人のおすすめの本と出会い、読書のさまざまな考え方を理解し、読書に親しみをもつ。	○	○					○		
1	7 考えを共有していくために ・檻の中の“街” ・小さな哲学者 ・多様な意見に触れるーパネルディスカッション	・媒体による情報の伝わり方の違いを理解する。 ・「聞くこと」の意義について認識を深める。 ・多様な意見に触れ、伝えることの意味や方法を理解する。	○	○		○			○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 テストや定期考査による分析	
	2										
3	8 よりよい書き手になるために ・ありのままの世界は見えない ものとことば ・情報を活用して説得的に書く	・事例と考えを自分の中で結びつけて読む。 ・自分の問題意識から情報を活用し、いいたいことを発見する。事例の提示によって説得力のある書き方をする。	○	○					○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。											

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2					
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	現代の国語(数研出版)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	「読む」と「書く」 「書けない日々」	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	○	○					○	学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
5	社会と文化 「水の東西」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え要旨や要点を把握することができる。	○	○					○	
6	新しい視点 「わらしべ長者」の経済学	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。	○	○		○			○	
7	ことばの働き 「ものごとことば」 「知識のシステムをつくる」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○		○			○	
7	環境と化学「動物園というメディア」	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。	○	○		○			○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
8・9	人間と時間「時間と自由の関係について」	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。	○	○					○	
9	認識の枠組み「浪費を妨げる社会」	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○	○					○	
10	問題を提起する「感情暴走社会の由来」	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	○	○				○	○	
11	対比する「デジタルメディア時代の複製」	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。	○	○				○	○	学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。
12										
12	賛否を述べる「命は誰のものなのか」	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○					○	評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
1	解釈を述べる「事実なのか考えなのか」	比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。	○	○		○			○	
2	意見を述べる「無痛化する社会のゆくえ」	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。	○	○				○	○	
3										評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 テストや定期考査による分析
3										
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2					
年組	1年1組		教科書(発行所)	新編 言語文化(教研出版株式会社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現		書く	読む		
			言葉	情報	言語	話す				
4	地域の「ことば」 とんかつ	作品の内容を踏まえ、登場人物のその後の行動を想像して話し合う。	○				○			学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
5	言語文化と古文 古文に親しもう	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○			○		○		
	訓読の決まり 格言	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化につ				○		○		
6	近代小説(一) 「羅生門」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○				○		○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉えその論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
7	古文の世界を楽しむ 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとする。					○	○	○	
8・9	8・9 9 故事と成語 「助長」「虎の威を借る狐」 9 詩歌を味わう 「六月」「サーカス」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	○				○		○	
10	現代にも生きる教え 『徒然草』	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。	○				○		○	学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。
11	和歌が作り出す世界 『万葉集』『古今和歌集』	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。	○				○		○	
12	故事と成語 「管鮑の交わり」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。	○				○		○	
12	12 語感を磨く 「側転と三夏」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○				○		○	評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
1	昔と変わらない人の心 『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。					○	○	○	
2	漢詩を味わう 中国の漢詩「春暁」 日本の漢詩「富士山」	作品中の表現をもとに、日本文化と中国文化の類似点・相違点を考察する。	○				○		○	
3	論語のことば 『論語』	落語と、その素材になった漢文のそれぞれについて、あらすじを調べてまとめる。					○		○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3					
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	言語文化(数研出版株式会社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		○			○	学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
5	漢文入門 「入門一・二」	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 (中間考査)	○		○		○	授業の進め方		
6	近代小説(一) 「羅生門」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○				○			
7	説話『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 (期末考査)	○				○	1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推察に役立てる。		
7	現代小説 「サラバ！」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○				○	学習の方法		
8・9	歌物語 「伊勢物語」	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○		○		○			
9	故事 「矛盾」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 (中間考査)	○				○	評価の観点		
10	詩歌 「サーカス」 「I was born」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○				○			
11	随筆(一) 「徒然草」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○		○		○	1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。		
12	史伝 「管鮑之交」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 (期末考査)	○				○	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。		
12	近代小説(二) 「城の崎にて」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○		○		○	評価の方法		
1	日記文学 「土佐日記」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		○		○			
2	軍記物語 「平家物語」 思想 「論語」「孟子」	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 (学年末考査)	○				○			
3	詩歌 「短歌」「俳句」	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	○				○	1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2					
年組	2年1・2組		教科書(発行所)	国語表現(大修館書店)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	1 言葉と出会う 言葉と表記 整った文を書く	主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、調った文を書くために大切なことを理解する。	○		○		○			学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
5	2 伝える、伝え合う 自己紹介ゲーム 絵や写真も見て書く	自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図る。取り上げる内容や話し方を工夫して、わかりやすく自己紹介をする。	○				○	○		
6	1 言葉と出会う 相手に応じた言葉遣い	話言葉と書き言葉の違いやその使い分けについて理解する。	○				○	○		
7	表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ	さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにする。	○		○		○	○		授業の進め方 1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり、深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合っって批評しあうことで、自分の表現や批評に役立てる。
7	1 言葉と出会う わかりやすい文を書く	係り受けや文末表現、敬語について正しい理解をもち、その使い分けについて理解する。	○				○			学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。
8・9	3 小論文・レポート入門 小論文とは何か 反論文を想定して書く	小論文の基本的な書き方を理解する。意見を筋道を立てて書く。反論を想定して小論文を書くことの意味を理解する。	○	○	○			○		
10	1 言葉と出会う 文のつながり方	接続表現の種類と働きを理解する。文脈による文のつながりを理解する。	○				○			
11	表現を楽しむ 2 無人島で生き残れ	課題を解決するために、建設的に話し合う。積極的に話し合いに参加し、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べる。	○	○			○	○		評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉の効果的に使おうとしている。
12	5 メディアを駆使する 通信文をかき分ける 電話を使いこなす	情報が編集されていることを理解する。メディアごとの立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	○	○				○	○	評価の方法 1 学習態度 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析
1										
2	表現を楽しむ 6 働く人にインタビュー	聞きたいことを明確にし、質問のしかたや話し方を工夫し、質問のしかたや話し方を工夫しながらインタビューする。聞き取ったことを整理し、効果的な伝え方を工夫して文章にまとめる	○					○	○	
3										
【備考】 ※ 評価										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2					
年組	2年2・3組文系		教科書(発行所)	精選文学国語(三省堂)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	一 小説の言葉・詩の言葉 夜中汽笛について、あるいは物語の効用について	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。物語の力について考える。	○					○	○	学習の目標 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に着けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めたりすることができる。 (3) 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉をとおりて他者や社会と関わろうとする。
5	二 小説(一) 少年という名前のメカ 山月記	短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞の仕方を学ぶ。小説を自分に引きつけて読み、人間に対する深い感受性を養う。	○					○	○	
6	三 詩歌 今日 わたしを束ねないで	近代詩・現代詩の鑑賞の方法を学ぶ。想像力を豊かにする。	○					○	○	
授業の進め方										
1 文学的な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 2 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。 3 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集し整理して表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。										
7	木に花咲き 短歌十五首	それぞれの短歌に詠まれた情景や心情を理解する。	○					○	○	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 表現するための文字の特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創造的な活動を行ったりする。
8・9	四 小説(二) ひよこの眼 神様	回想形式に留意して、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考える。	○					○	○	
10	五 翻訳 ありとぎりぎりす	翻訳小説の魅力について考える。小説と参考文献を読み比べて、その共通と相違点を理解する。	○	○				○	○	
11	八 評論 文学の仕事	人生の目的や意味を、自分に引き寄せて定義するために「文学の力」があることを理解する。	○					○	○	
12										
評価の観点										
【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。										
評価の方法										
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析										
12	七 小説(三) こころ	小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身につける。他者の体験や心情を自己の問題として捉え直し、人間の「生」の意味と意義を考える。	○					○	○	備考 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
1										
2										
3	八 評論 お砂糖とスパイスと爆発的な何か	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。批評について理解を深める。	○					○	○	

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2					
年組	2年3組		教科書(発行所)	高等学校論理国語(第一学習社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	評論(一)天然知能として生きる	筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について考えを深める。	○					○		学習の目標 (1) 実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
5	評論(一)自他の「間あい」	言い換えや比喻を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。	○					○		
	評論(二)「私」中心の日本語	具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。	○					○		
6	評論(二)日本人の「自然」	筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。	○	○					○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 3 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
7										
7	読み比べーコミュニケーション対話の意味	コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。		○				○		学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創造的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりする。
8・9	実用文(一)法にかかわる文章を読み比べる	二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	○	○					○	
9	評論(三)手の変幻	筆者の完成や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。	○						○	
	評論(三)越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。	○	○					○	
10	評論(四)働かないアリに意義がある	アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。	○	○					○	
11	評論(四)AI時代の社会と法	AI(人工知能)の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日の問題意識を持つ。		○					○	
12										評価の観点 a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b. 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。
12	評論(五)なぜ多様性が必要か	動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。	○	○					○	
1	評論(五)生体認証技術の発展とみらい	生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。		○					○	
2	評論(六)コミュニティ空間としての都市	情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。		○					○	評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析
3	評論(六)「第二の身体」としてのメディアと技術	メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。	○						○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3					
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	高等学校精選古典探究(第一学習社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。				○				学習の目標 (1)生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○		○		
	説話(一)『沙石集』 「歌ゆゑに命を失ふ事」 随筆(一)『徒然草』 「あだし野の露きゆるときなく」	争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。				○	○		○	
6	故事・寓話 「嬰逆鱗」「知音」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○		○	○	
7										
授業の進め方										
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。				○	○		○	1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
8・9	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」	史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。				○		○	○	
9	物語(一)『大和物語』 「嫉捨」	和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。				○	○	○		
10	漢詩の鑑賞 「独坐敬亭山」「送夏目漱石之伊予」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを深める。				○	○	○	○	
学習の方法										
11	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」	内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。				○	○		○	1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。
12	名家の文章 「雑説」「売油翁」	本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。				○	○	○		
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」	歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。				○		○	○	
評価の観点										
1	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。				○	○		○	a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
	日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」	女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。				○		○	○	
	2	諸家の思想『孟子』『韓非子』 「性善」「侵官之害」	『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』、対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解を深める。				○		○	
3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」	軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。				○	○		○	
評価の方法										
【備考】										
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2					
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	高等学校精選古典探究(第一学習社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。				○				学習の目標 (1)生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○		○		
	説話(一)『沙石集』 「歌ゆゑに命を失ふ事」 随筆(一)『徒然草』 「あだし野の露きゆるときなく」	争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。				○	○		○	
6	故事・寓話 「嬰逆鱗」「知音」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○		○	○	
7										
授業の進め方										
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。				○	○		○	1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
8・9	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」	史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。				○		○	○	
9	物語(一)『大和物語』 「嫉捨」	和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。				○	○	○		
10	漢詩の鑑賞 「独坐敬亭山」「送夏目漱石之伊予」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを深める。				○	○	○	○	
学習の方法										
11	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」	内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。				○	○		○	1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。
12	名家の文章 「雑説」「売油翁」	本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。				○	○	○		
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」	歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。				○		○	○	
評価の観点										
1	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。				○	○		○	a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
	日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」	女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。				○		○	○	
	2	諸家の思想『孟子』『韓非子』 「性善」「侵官之害」	『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』、対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解を深める。				○		○	
3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」	軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。				○	○		○	
評価の方法										
【備考】										
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2					
年組	3年1・2組		教科書(発行所)	国語表現(大修館書店)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現		言語	話す		書く
言葉	情報	言語	話す	書く	読む					
4	3小論文・レポート入門 文章を読み取って書く 発想を広げて書く	自分の意見や考えを的確に伝えるために、論理の展開や文章の構成を工夫するなどして、小論文やレポートの書き方を学ぶ。	○	○						学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
5										
6	4自己PRと面接 自分を見つめて効果的な自己PR 将来の自分を考えよう	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。事実や出来事を踏まえて、効果的な自己PRをする。	○		○	○	○			授業の進め方 1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して自分の考えをまとめたり深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いなどの表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
7										
7	志望理由を書こう 自己推薦書や学修計画書書く 面接にチャレンジ	志望先について十分な情報を集める。調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結び付け、説得力のある志望動機を書く。	○		○					学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。
8・9										
9	表現を楽しむ 10エッセイを書く	さまざまなエッセイを参考にしながら、題材を集め、読み手を楽しませるように書く。	○		○					
10	5メディアを駆使する 電子メールを活用しよう ネット社会との付き合い方 ネットを活用した情報収集	様々な通信文の形式を理解する。相手に応じた適切な言葉遣いや対応の仕方を理解する。	○	○						
11										
12									評価の観点	
12	表現を楽しむ 5「わが町自慢」のパンフレット作り	情報を適切に編集し、読み手を引きつけるようなパンフレットを作る。			○	○				【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
1	6会話・議論・発表 相手や場面に応じた会話 スピーチをしよう	場面に応じた言葉遣いを考える。ロールプレイで役割に応じて効果的な表現になるように工夫する。	○	○			○	○		
2									評価の方法 1 学習態度 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	
3										

【備考】

※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2					
年組	3年2・3・4組文系		教科書(発行所)	精選文学国語(三省堂)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	一 読むこと・書くこと・語ること 本を読むと路に迷う 想像し物語ること	本を読むことの「幸福」について考える。 「想像力」のはたらきを理解する。	○					○	◎	学習の目標 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に着けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めたりすることができる。 (3) 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉をとおして他者や社会と関わろうとする。
5	二 小説(一) ベルエポック 靴	「私」の視点で描かれていることに留意して登場人物の関係を捉える。 「靴」の象徴的意味について考える。「靴」の意味を考えるを通して、自分のものの見方、考え方を深める。	○					○	◎	
6	三 詩歌 永訣の朝 渡り鳥一俳句十五句	表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 それぞれの俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する。	○					○	◎	
7	四 文学の共同制作 連詩の愉しみ ヤングの連句 連詩をつくる	文学の共同制作の意義を考える。 連句の詠み方・進め方を事例を通して理解する。	○					○	◎	授業の進め方 1 文学的な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 2 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。 3 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集し整理して表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
8・9	五 小説(二) 靴の話 夏の花	「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解する。 「私」が目撃した原爆投下の光景を、時系列に即して理解する。	○					○	◎	
9	六 翻訳の言葉 『雪国』の謎 涙の贈り物	優れた翻訳について考える。 文体の特徴や表現の特色に注意して作品を読み、翻訳小説の魅力について考える。	○					○	◎	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 表現するための文字の特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。
10	七 小説(三) 檸檬 舞姫	事物の描写に注目して、「私」の心情を理解する。 手記形式に注目して、小説の内容を読み取る。	○					○	◎	
11	八 評論 陰翳礼賛 無常ということ	それぞれの評論について文体の特色を理解する。 近代小説の文体の歴史的変遷について理解を深める。	○					○	◎	
12	舞姫		○					○	◎	評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
12	舞姫		○					○	◎	
1	八 評論 陰翳礼賛 無常ということ		○					○	◎	
2										評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析
3										
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3						
年組	3年3・4組		教科書(発行所)	高等学校 精選 古典探究							
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目		
			知識・技能			思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む			
4	説話『発心集』 「叡美、路頭の病者を憐れむ事」	仏教説話に取り上げられた人人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する。	○						○	学習の目標 (1) 生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。	
5	逸話『説苑』 「不顧後患」	古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取る。	○						○		
	随筆『枕草子』 「宮に初めて参りたるころ」 「雪のいと高う降りたるを」	日記的章段を読んで、作者と中宮定子との関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。	○						○		
6	漢詩 「賁子」	構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。	○						○		
	物語『源氏物語』 「夕顔の死」	長編物語としてのストーリーをたどりながら、『源氏物語』の話の展開のしかたや心理描写の巧みさを捉える。	○						○		
7											授業の進め方
7	評論『俊頼髓脳』 「歌のよしあし」	和歌に関する多様な考え方の一端に触れ、公任が考える、世評とは異なる和歌の評価基準を理解する。	○						○		1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
8・9	評論『無名草子』 「清少納言」	和歌に関する多様な考え方の一端に触れ、俊恵が考える和歌の評価基準を理解する。	○						○		
9	諸家の文章 「売柑者言」	作者が買った「柑」の実態とそれを売る者の言い分を契機として、作者の目が何に向けられているかを読み取る。	○						○		
10	物語『大鏡』 「菅原道真の左遷」	歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。	○						○	学習の方法	
11	史記 「管鮑之交」	王位継承をめぐる戦いの経緯を人物関係とともに押さえ、敵味方に分かれた友情の顛末を読み味わう。	○						○	1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。	
	12	日記『たまきはる』 「建春門院の夢」	場面と状況を的確に捉え、夢に現れた亡き主への思いや、現実の世の変転に対する思いを読み解く。	○					○		
12	評論 「風姿花伝」	年齢に応じた稽古のしかたを説いた能楽論から、人の生き方に通じる普遍的な教訓を読み取る。	○						○	評価の観点	
1	物語『とりかへばや物語』 「父大納言の苦悩」	王朝の系譜に連なるさまざまな物語の中から、得意な設定の作品を読んで、古典への興味を広げる。	○						○	a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
2											
3											
【備考】										評価の方法	
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 テストや定期考査による分析	